



ふう う そう ろ 風 雨 霜 露 の 教 え

— 自然と歴史に学ぶ —

予見

Vol. 58

大規模な自然災害が頻発する時代になってきました。

日本のみならず世界各国各地で、毎年多くの被災者の人々が増えてきています。

こうした大きな被害をもたらす天災はもとより、毎年、春夏秋冬の季節の変化は我々の生活様式を変化させるだけでなく、心の有り様にも刺激を与えています。

「礼記」に「風雨霜露も教えてないものはない」

春のそよ風は人の心を和ませ、

雷鳴や稲光は人の心を戒め、

霜や露は人の心を引き締め、

冷たい氷や雪は人の心を堅固にする。

と書いてありますが、我々は季節の変化の中からも学ばなければならないという教えかと思います。

気候の変化だけでなく時代は常に動いていて、順境の時も有れば、逆境の時代も有り、歴史は常に同じ様な事象を繰り返しながら変化し続けている訳です。

過去と全く同じ事は起こらないとしても、類似の事は常に起こっている訳で、その時々の様に当時の人々は対応してきたかを知り、我々の近未来に起こり得る事に対応する処方を経済史の中から学びとる事が大事かと思います。

今日、世界が再び戦乱の世の中に巻き込まれそうなりスクの高い時代となりつつあり、我々は近未来に起こり得る国難を想定して備える状況下に有ると思います。

東大法学政治学教授の五百旗頭薫先生の書かれた「嘘の政治史」という本の中に

嘘には2つの嘘が有る

1つは騙す嘘(獲物を得る為に動物が相手を騙す様な嘘で、人間社会でも自分の利害の為に人を騙す、よくみられる嘘)

もう1つはまかり通る嘘(あきらかに嘘だと分かることを平然と主張し、嘘で騙す事に失敗しても嘘を押しつけるのに成功させ、嘘の騙す力ではなくまかり通る力を持つ嘘で、しばしば大国がそれを使う)

と書いてあります。

まかり通る嘘は騙す嘘より有害で、隣国中国共産党やロシア、北朝鮮の独裁者が行っている嘘の歴史、思想教育による専制政治は、まさに有害なまかり通る嘘の最たるものだと思います。

こうした中で我々は正しい歴史認識と国家観をしっかりと持ち、まかり通る嘘で固めた覇権国家によって迫りつつある有事への備えを急ぐ必要性を強く感じる最近です。

徳真会グループ

代表 松村 博史